

リンクスの 事業再生現場

レポート 第114回



(株) リンクス

宇都宮市西一の沢町8-22 栃木県林業会館5F

TEL : 028-634-5088

Mail : info@rincs.biz

URL : <https://www.rincs.biz/>

【三代目の覚悟】

能登半島地震で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

地震、航空機事故、終わらない戦争や民族間紛争等々、暗いニュースが多い年明けとなっています。経済に目を転じてみても、インフレの続く中で中小企業には明るい話題は少ないようです。当コラムも、いつもは厳しい話が多いのですが、年初は明るい話題にしてみましょう。

事業を長年同じ形、同じ業態で継続させることはとても難しいことです。なぜなら、人々や社会のニーズは常に変化し続けますが、その変化に合わせて事業の「人・モノ・カネ」を変化させていかなければならないからです。

1936年に「(株) さかもと」は宇都宮市の中心部で、金物卸商として誕生しました。

その後、営業地域や取扱商品の幅を広げてきましたが、平成に入り「地方の卸業者」と「全国的な卸業者」との価格競争の激化により、業績悪化が続くようになってきました。その間、経営者も創業者から二代目、そして平成30年に三代目へと引き継がれています。

ジリ貧の続く「さかもと」でしたが、三代目は会社の存続を目指し、本業である「卸業」からの撤退を決意します。もともと卸業は、商品のストック量が生命線であり、その保管のために、広いストックヤード(倉庫)が不可欠の業態です。しかし広いストックヤードは、維持管理コストが高く、コスト以上の利益が確保出来なければ、却って経営の重荷となってしまいます。

三代目社長は、就任後直ぐに、ストックヤードの売却と卸業からの撤退を断行し、長年続く会社を、全く別の業態へと変化させることにしました。

では、どんな会社、業種へと変わったのでしょうか？

社長は、地方の会社が生き残る鍵は「ニッチなマーケット」と「高付加価値」が必要だと考え、売却の数年前から取り組んでいた「カラートイレの製造」を本業とすること、すなわちメーカーに転換することでした。

現在トイレメーカー(実質3社)は、「白または淡い色」のトイレしか製造しておらず、カラフルな赤や青、メタリック色といった濃い色や、装飾の付いたトイレは販売していません。背景はニーズが無い、あるいは汚れを防ぐため塗装し難いことが原因のようです。

しかし今や「多様性」の時代、必ずどこかにニーズがあると信じ、社長はカラートイレの製造や販路の拡大に取り組んできました。

「涓滴岩を穿つ」、最初の数年は製造面で、その後は設置工事や販売での失敗を繰り返し、スタートしてから8年めの昨年夏、「BIDOCORO(ビドコロ)」という商品名でカラートイレは発売に辿り着きました。

様々な失敗は「仲間」を増やすことに役立ちました。当初は自社単独で行ってきた、営業・製造・販売を、支援してくれる地元の専門業者が協力し、営業はIT会社へ、販売は建材卸業者へ任せることで、事業としての骨格を固めています。

「(株) さかもと」は三代目で卸業からメーカーへと転身し、事業の存続と生き残りを図っています。

「カラートイレ」は何の役に立つのか、なぜ白でなく色が必要なのか、何処にニーズがあるか…。ニッチなマーケットなので、生き残りの道は決して平坦ではありません。しかし勇気ある三代目の取組に、ご興味があれば応援してください。

三代目社長のお名前は「坂本英典」さんです。

ビドコロ製品HP : <https://bidocoro.jp/>

(株) さかもとHP : <http://mrs-mocchi.com>



〈著者プロフィール〉

代表取締役社長 佐藤 正人

昭和37年生まれ、大田原高校、新潟大学卒。

昭和60年足利銀行へ入行後、営業店、審査部門を経て平成16年退社。

在職中の事業再生の経験を活かし、平成18年栃木県で初めての事業再生専門のコンサルティング会社である(株)リンクスを設立し代表者に就任。以来地元中小企業の多くの事業再生を行っている。